

宮城県林業普及活動情報

2026. 5 月号 No. 216

もくじ

各地の林業普及活動情報	P2~6
○たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組	(大河原地方振興事務所)
○大河原産業高等学校農業科学科1年生向け林業PR活動	(大河原地方振興事務所)
○たけのこ販売会の開催	(仙台地方振興事務所)
○森林経営管理制度仙台圏域推進会議の開催	(仙台地方振興事務所)
○「栗原の苔」産地化に向けて	(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
○多様な森林づくりに向けて	(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
○情勢変化に伴う林業への影響の把握	(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
○『みやぎ水産の日』販売会における特用林産物の販売支援	(東部地方振興事務所)
○「森林病虫害等防除事業(特別防除)担当者打合せ	(東部地方振興事務所)
○「生物多様性モニタリング調査」の支援	(東部地方振興事務所登米地域事務所)
○気仙沼市産メンマづくり体験会	(気仙沼地方振興事務所)
○みやぎ森林・林業未来創造カレッジ「林業教室開講式・必修講座Ⅰ」	(林業技術総合センター)

たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組

大河原地方振興事務所

【5月7日(木)・12日(火)・14日(木)・18日(月)・19日(火)】

丸森町の「たけのこ」について、今シーズンも生産者及び町等と連携し、適時適切に放射性物質濃度の出荷前及び定期検査を実施し、安心・安全なたけのこの出荷に取り組みました。

出荷制限がかけられている丸森町の3地区については、全量スクリーニング検査を実施した上で出荷していますが、出荷制限の全面解除に向け、生産者との情報交換を行いながら、たけのこ採取とモニタリング調査を実施しました。今後、検体の放射性物質濃度検査の結果を踏まえ、出荷制限の全面解除に向け、関係機関との協議や生産者への情報提供など、丸森町と連携してたけのこ生産の支援を継続していきます。



【竹林所有者から発生状況聞き取り】

大河原産業高等学校農業科学科1年生向け林業PR活動

大河原地方振興事務所

【22日(金)】

県内で唯一林業関係科を有する大河原産業高等学校では2年生の進級時に専攻科目の選択があることから、林業関係科の専攻を促すため、同校農業科学科1年生に対し森林・林業の魅力や役割、関係する仕事などについて解説するPR活動を行いました。このPR活動では管内の仙南中央森林組合と連携し、間伐を行った現場を会場として森林施業の方法や森林に係る仕事について説明を行いました。

質疑応答の時間ではいくつか質問が出るなど、生徒の方には積極的に取り組んでいただきました。多くの生徒は森林の現場を訪れるのが初めてであったことから、今回のような機会が森林・林業への興味を持ってもらえるきっかけとなり、林業関係科への専攻や、将来的な林業の担い手の増加に繋がるよう、今後も生徒に向けた普及活動を継続してまいります。



【説明時の様子】



【現場見学の様子】

たけのこ販売会の開催

仙台地方振興事務所

【7日（木）・11日（月）】

仙台合同庁舎ロビーにおいて、特用林産物の振興を目的に林業技術総合センター内で採取された「たけのこ」のPR販売会を開催しました。

販売会開催に当たり近隣施設への周知も行った結果、7日（木）は72袋、11日（月）は30袋の合計102袋の売上げとなりました。来場者からは「安くていいね」、「おいしくてまた買いにきました」との声を頂戴しました。

今後は、他の特用林産物についても県民の皆様へPRするため、販売会の開催を検討します。



【販売の様子】

森林経営管理制度仙台圏域推進会議の開催

仙台地方振興事務所

【29日（金）】

森林経営管理制度の取組を推進するため、仙台圏域推進会議を開催し、管内の市町村担当者と事業体等から17名の参加がありました。

本制度の進め方について説明するとともに、各市町村の取組状況について共有し、法改正のポイント、市町村支援について重点的に情報提供しました。

管内市町村における制度の進捗状況と森林環境譲与税の用途について共有することで、制度推進に向けた意欲の向上が図られました。森林経営管理サポートセンターからは実践研修について、森林組合からは制度推進に向けた相談対応の状況について説明いただき、法改正に係る林野庁説明会聴講と合わせて意見交換を行いました。

年度初めに開催することで、市町村に対し森林整備に係る動機付けを図ることができました。今後も支援を継続していきます。



【圏域推進会議の様子】

「栗原の苔」産地化に向けて

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【1日（金）】

当管内で取り組んでいる「苔」の産地化促進のため、テラリウムなど苔利用者からの意見をもらう「検討部会」を開催しました。

部会委員からは、「栗原産の苔」の安定供給やブランド化等の提言がなされました。今後は、生産団体との調整を行うとともに、苔イベントでの利用拡大を目指し、苔テラリウムのコンテストでの栗原産苔の活用などの検討を進めてまいります。



【苔の利用者との意見交換】

多様な森林づくりに向けて

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【12日（火）】

所有者の意向による広葉樹植栽（樹下植栽：既存木周辺への新苗植栽）の現地箇所において、作業受託者と現地検討を行いました。

「適地適木」の考えに基づき、残存木の配置や、地形条件の制約など、箇所ごとの課題について意見を交換しました。植栽樹種の特徴（ミズナラ）も含め、今後、多様性に富む森林となるよう、施業の参考にしてもらうとともに、植栽後も成林に向け、必要な保育管理についても支援を継続する予定です。



【現地踏査により検討】

情勢変化に伴う林業への影響の把握

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【28日（木）】

昨今の中東情勢による林業への影響把握などを目的に、林業振興課職員とともに、管内の林業事業者（「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づく認定事業者2者）を訪ね、現状の課題を聞き取りました。

林産現場ではソーチェーンオイルの入手が困難となっていることがわかり、また、丸太の納入先となる木材工場では接着剤等の不足の影響で丸太がいつまで受け入れ可能か分からないなど、先行きの不透明感が深刻化していることを改めて確認しました。聞き取り内容は今後の県施策等への参考とさせていただきます。



【事業者への聞き取りの様子】

『みやぎ水産の日』販売会における特用林産物の販売支援

東部地方振興事務所

【20日（水）】

宮城県石巻合同庁舎において月1回開催されている「みやぎ水産の日」販売会において、管内で生産されたしいたけの販売支援を行いました。生しいたけ・乾しいたけ共に完売となり大変好評でした。来訪者に対し調理方法や保存方法を説明するなど、きのこの良さをPRすることができました。

引き続き同販売会において、管内の特用林産物のPR・販路拡大に向けて支援していきます。



【販売会の様子】

森林病虫害等防除事業（特別防除）担当者打合せ

東部地方振興事務所

【22日（金）】

深刻な森林被害を引き起こす松くい虫対策のため、ヘリコプターによる薬剤空中散布の実施について、関係機関（市町、業務受託者）と打合せを行いました。

薬剤空中散布に係る従事者の各担当業務内容や、散布前日から当日の進行スケジュールを確認するとともに、連絡体制等の点検を行いました。また、各市町には円滑に業務を実施できるよう地元住民等への十分な周知を依頼し、安全かつ適切な被害対策の実施を図りました。



【打合せの様子】

「生物多様性モニタリング調査」の支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【11日（月）】

登米市森林管理協議会がFSC認証を取得した森林内で、NECソリューションイノベータ（株）と連携し現地調査と土壌の採取を実施しました。

採取した土壌は、内部に含まれるDNAの分析が行われ、生物多様性の評価に使用されます。生物多様性の豊かさが確認できれば、森林認証の取得継続や、認証材の販路開拓と流通拡大の推進力となることが見込まれます。今後も関係機関と連携し、生物多様性保全に向けた取組を支援して行きます。



【土壌採取の状況】

気仙沼市産メンマづくり体験会

気仙沼地方振興事務所

【18日（月）・21日（木）】

現在問題となっている放置竹林対策の一環として、地域住民の方々の協力のもとメンマづくり体験会を開催しました。

体験会は令和元年度から開催しており、今年度は旧本吉地区、気仙沼地区の2地区で合計70kgのメンマ（生重量）を生産しました。メンマの材料には、高さ2～3m程度まで育った幼竹を使用するため、おいしいメンマを作りながら竹林整備も行うことが出来ます。体験会では幼竹の収穫、下処理、茹で、塩漬けまでを行いました。その後、メンマ特有の風味や食感を生み出す発酵と乾燥の工程に進みます。

無事にメンマづくりが成功するよう引き続き現地指導を行っていきます。



【メンマの下処理状況】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ

「林業教室開講式・必修講座Ⅰ」

林業技術総合センター

【27日（水）】

令和8年5月27日に、林業教室の開講式及び必修講座Ⅰを開催しました。

林業に就業して間もない方を対象に当センター職員が講義や施設内の苗木育種現場の案内を行いました。

午前中は座学で林業の基礎知識や宮城県の森林について学んでいただき、午後はセンター内の採種園・採穂園を見学しました。全国的にも珍しい半閉鎖型ハウスのスギ採種園など、受講生の皆様は興味深げに見学していました。

林業教室は今後5回の開催が計画されています。受講生の皆様が林業への理解を深められるよう準備を進めていきます。



【講義の状況】



【実習の状況（林業種苗）】